

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 3PRA 分科会

第 41 回会合議事録

日時：2024 年 6 月 14 日（金）9:00～11:20

場所：WebEx による Web 会議

出席者：

委員：津崎主査（電中研）、木村幹事（JAEA）、田原幹事（東芝 ESS）、飯本（東大）、岩波（日立 GE）、泥谷（NEL）、岡村（原燃）、菅野（VIC）、佐々木（電中研）、神野（原電）、斯波（JANUS）、鄭（JAEA）、西（関電）、廣内（JAEA）、向原（TEPSYS）、吉田（東電）、【16 名】

委員候補：大家（NEL）

常時参加者：大沼（原電 E）、角谷（JANUS）、黒川（電中研）、鈴木（NRA）、内藤（電中研）、松下（東芝 ESS）、森井（原電）、和田山（NRA）【8 名】

欠席委員：池田（CTC）、高原（JAEA）、宮原（MHI）、横山（藤田医科大）

議題：

- (1) 人事について
- (1) 前回議事録確認
- (2) レベル 3PRA 標準改定に係る作業について
- (3) その他、今後の予定、状況連絡等

配布資料

P8SC41-1 人事について

P8SC41-2 第 40 回 L3PRA 分科会議事録(案)

P8SC41-3-14-1 14 章_リスクの定量化_新旧比較

P8SC41-3-14-2 14 章_リスクの定量化

P8SC41-3-14-3 付属書 L_リスクの定量化_新旧比較

P8SC41-3-14-4 付属書 L_リスクの定量化

P8SC41-3-14-5 参考_JIS 原案作成のための手引_【第 21 版】_JIS Z 83012019 対応

P8SC41-3-15-1_15 章_感度解析不確かさ解析_L3 本文新旧比較

P8SC41-3-15-2_15 章_感度解析及び不確かさ解析

P8SC41-3-15-3_付属書 M_感度解析不確かさ解析の役割_L3 付属書新旧比較

P8SC41-3-15-4_SOARCA_Uncertainty_Analyses_References

P8SC41-3-16-1 16 章_文書化_新旧比較

P8SC41-3-16-2 16 章_文書化

P8SC41-3-16-3 付属書 N_文書化の項目例_新旧比較

P8SC41-3-16-4 付属書 N_文書化の項目例

P8SC41-4 レベル 3PRA 改定作業検討スケジュール(改訂案)_2024 改訂_r2

追加資料

L3 本文新旧比較_附属書 J_健康影響の評価モデル_20240515

参考資料

P8SC41-参考 1 レベル 3PRA 分科会名簿 (承認前)

P8SC41-参考 2 レベル 3PRA 分科会名簿 (承認後)

議事概要

分科会開始時点において委員 20 名中 15 名 (後 16 名) が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることを確認した (菅野委員は途中から参加)。

1. 人事について(P8SC41-1)

・主査について

主査の任期満了に伴う改選を行った。オンライン開催であるため、WebEx の投票機能を利用した。投票の結果、津崎委員が15/15票となり、津崎委員が主査として再度選任された。幹事は主査の指名により委員の中から選ばれる。津崎主査により、木村委員と田原委員が幹事として指名された。

・委員について

以下の1名の委員就任が、15名中15名の賛成によって承認された。

- ・ 大家 慶 (原子力エンジニアリング)

以下の1名の委員の退任が報告された。

- ・ 泥谷 雅之 (原子力エンジニアリング)

2. 前回議事録確認 (P8SC41-2)

第 40 回議事録案について、軽微な修正のうえ承認された。

3. レベル3PRA標準改定に係る作業について

以下の各章について、担当の委員から改定作業内容の報告があり、説明・議論・決定がなされた。

【15章】 (P8SC41-3-15-1~P8SC41-3-16-4)

- ・ 階層化を行った。満たすべき要件、手順及び手法それぞれの中で感度解析と不確実さ解析について記述する。
- ・ 附属書 M については、前回の標準改定以降に発行された SOARCA 研究のセコイアを対象プラントとした文献の内容を確認し反映の要否を検討中。
 - 14 章 (附属書 L) でも SOARCA 研究を引用しているため反映要否を確認したい。
 - Uncertainty Analyses に特化した NUREG/CR-7245 を参照している。
- ・ 「不確かさ」「不確実さ」の使い分けはあるか？
 - 明確な使い分けの基準はない。L3PRA 標準では「不確実さ」で統一する。

- ・満たすべき要件の文末を「～すること。」としているが、他の章との整合から「～する。」という形に修正する。

【12章】（L3 本文新旧比較_附属書 J_健康影響の評価モデル_20240515）

- ・附属書 J の参考文献のアップデート及び追加に伴う記載の修正を行った。
- ・サブタイトルについても適正化を行った。
- 新旧比較表の補足欄にタイトルの変更理由を明記すること。

【14章】（P8SC41-3-14-1～P8SC41-3-14-5）

- ・内容の修正はない（前回までで説明済み）。
- ・15章の改定内容を確認したうえで、14章においてSOARCA研究の新しい文献の反映の可否を含めて検討したい。
- ・JIS原案作成手引を参照した誤記チェックを行い、記載を適正化した。
他の標準改定において、リスク専門部会へ中間報告を行う段階で、並行して学会標準課でも誤記チェックを実施している。その際に標準課においてJIS原案作成手引を基にコメントをもらった。標準制定前の最終チェックは分科会の委員で実施することになるが、事前にチェックしておけば修正は少なくなる。
- 各章についても、可能なタイミングで誤記チェックを適宜行う方が望ましい。

【16章】（P8SC41-3-16-1～P8SC41-3-16-4）

- ・階層化を実施した。ASMEでは各章で個別に文書化について記載されており、文書化に特化した章が無いため、他の章の改定案を参考とした。
- ・文書化する事項として、箇条 6～15 の実施事項とそれ以外の部分に分けて記載した。
- ・PRA の利用者の具体例は記載を残した。
- 注記という形にすること。記載方法は、標準作成ガイドラインを参考とする。
- 運転員は利用者に該当するのか？
→ PRA の活用が目標となっており今後活用されていくと思われる。
- ・16.2 は、追跡、更新及び改訂、外部利用に分け、それぞれに満たすべき要件と手順及び手法を整理した。
- ・16.3 は、文書化の構成と項目をまとめた。
- ・附属書 N は、各章の改定案から引用している。改定状況を適宜確認して反映していく。

【各章の改定案への気付き】

- ・6章：6.4.1.2 手法及び手順 → 手順及び手法に統一すること。
- ・7章：7.1 一般事項 → 目的及び実施すべき事項に変更すること。
- ・13章：階層化の整理を行うこと。
- ・不確実さ解析については、各章では詳細に記載しすぎず、15章（附属書 N）で網羅的に記載する方針とする。

- ・用語の統一の必要があれば、4章のファイルにメモ等を追記すること。
- ・体裁や記載に迷う点は、標準作成ガイドラインを参考にすると良い。

3. その他、今後の予定、状況連絡等

- ・スケジュールについては資料（P8SC41-4）のとおりで異議はなかった。
- ・各担当分のアップデートした資料は、適宜さくらポケットにアップロードするよう再周知された。7月末を締切りとして合本版を作成し、各担当分だけでなく関連個所についても誤記等の確認を行えるようにしたい。2025年2月のリスク専門部会での中間報告を当面の目標とする。
- ・次回の分科会は2024年11月5日または6日を予定する。

以上